

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ご入居されている方々一人ひとりが生きがいを持ち続け、日々を楽しみながら心身の健康を保ち、さらに向上するホームにすることを目標とする」という独自の理念をつくっている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員室に理念を明示し、常に目に入るようにしている。日常の業務で理念の実践を行っている。	カンファレンス等で今後も繰り返し共有、確認していく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念を玄関や廊下にも明示し、ご家庭や来訪者にも説明している。利用者ご家族、職員で音読することもある。	地域の方々やご家族にもっと理解して頂けるよう 掲示する場所や大きさ等も考えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	通りかかった方々への挨拶を心がけている。近所の猫が庭に遊びに来るので、飼い主さんと猫好きの利用者との会話もある。しかし、気軽に立ち寄っていただけるようなお付き合いまでには発展していない。	当GHのことをまず知っていただき、理解が深まるよう働きかけをしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館の盆踊りの練習に利用者と共に参加した。校区内の中学生の福祉体験学習や保育園児の訪問を受け入れている。行きつけの美容院の方から食材の差し入れをいただくこともある。	公民館だより等で地域活動の情報を得て交流に努めていきたい。

グループホーム とりかい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	包括支援センターの方や民生員の方に、お手伝いできることがあれば積極的に参加するとお話している。		地域の高齢者の方々の相談等、役立つことがあれば貢献していきたい。
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を説明し、評価結果を職員に伝達している。昨年改善点として上げられたものについては、各職員が個々に改善策を考えて案を提出した。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やご家族からの苦情やインシデント、問題行動等を報告し、今後の対応や取り組みを説明している。忌憚ない意見交換ができるよう、レクリエーションの写真やたよりをみながら、固苦しくない雰囲気を作るようにしている。		回を重ねる度に意見や質問の数も少しずつ多くなってきた。今後サービス向上のために会議内容の充実を図っていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	城南区役所で開催された区内の地域密着型サービス事業所の意見交換会に参加した。他事業所や包括支援センターの担当者や情報交換を行った。		運営推進会議に2回参加をいただいているが、定期的に「ホームだより」をお持ちしたり積極的に当GHの情報を提供していきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に職員が参加している。資料も回覧し、学ぶ機会を持っている。地域福祉権利擁護事業は「あんしん生活支援」を利用していた方が以前おり、制度を理解している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法については学ぶ機会を持っていないが日々の業務内で、問題のあるケアになっていないか話し合い報告するようになってきている。身体的な面だけでなく声かけ等精神的な虐待もあるので注意している。		GH内の勉強会のテーマとして取り上げていきたい。

グループホーム とりかい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解 納得を図っている</p>	<p>相談や見学を重ねていただき、理念の具体的説明や重要事項説明に時間をかけている。解約時も説明を行い理解を得ている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>不満内容でハートのものは法人へ報告し、改善を図っている。その他の意見や不満について職員、管理者はできる限り対応している。 外部者である薬剤師に利用者から直接質問されることもある。</p>	<p>意見や不満、苦情に柔軟に対応していきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>体調の変化やケガ等速やかに連絡して受診結果の報告を行っている。面会時には近況報告やおこづかい帳のチェックをしていただいている。 遠方のご家族には月1回のホームたよりに加え、個別のお手紙を送っている。職員異動はホームたよりにて報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>GH内の苦情相談窓口は管理者であり、苦情内容を職員間に伝達してファイルしている。契約時に説明する重要事項説明書の中に公的窓口機関を明記している。玄関横に相談窓口110番のポスターを掲示している。</p>	<p>ご家族の中にはなかなか本音を言わない方もいらっしゃるので、運営推進会議や面会時を活用して運営に反映させていく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のカンファレンスで意見や提案を出している。朝の申し送り時や時間のある時にも職員へ意見を求め聞く機会を設けている。</p>	<p>意見交換しやすい職員関係を継続していきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>レクレーション等は前月の半ばまでに担当者が予定日を決めて翌月のシフト人員を配置できるようにしている。有休等、職員の勤務希望もシフトに反映させているが、急な人員配置の必要が生じた場合は調整を行うようにしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>前回の外部評価以降、職員の離職、異動はない。</p>	<p>なじみの人間関係の上に利用者やご家族との信頼が生まれるので、ダメージは必要最小限に抑えていきたい。 新規採用の職員には声かけや対応についての情報提供や指導を行なっていく。</p>

グループホーム とりかい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	<p>法人担当者が職員の募集・採用を行っている。不当な差別は行われていない。</p> <p>勤務希望に極力応じており、冠婚葬祭の特別休暇も定められている。</p> <p>研修費用や交通費も負担し、勤務扱いになっている。</p> <p>職員は勤務時、料理やお菓子作り、手工芸等得意なことを活かして入居者と一緒に能力を發揮している。</p>	
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>職員に求められる10か条を職員室に掲示している。</p> <p>入居者の人権を尊重したケアの重要性を理解している。</p>	
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>認知症実践者研修やグループホーム協議会、内外の研修へ積極的に参加している。レポート提出も義務付けている。</p> <p>法人全体の勉強会以外に、2ヶ月に1回GHと小規模ホームと合同の勉強会を行っており、持ち回り担当者がテーマ決定から資料作成を行って発表している。</p>	<p>研修後の伝達講習を勉強会のテーマに盛り込んで充実させていきたい。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム協議会Aブロックに所属している。全体研修会の準備やブロック内の文化祭の打ち合わせ等で交流の機会を持っている。</p>	<p>今後も継続してネットワークを発展していきたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>法人全体でのイベント(海水浴、旅行、忘年会、ボーリング大会)があり、勤務扱いとなっている。現場を少しの時間でも離れるとフレッシュできるので、職員同士が声かけ、協力しながら休憩時間を確保している。</p>	
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている。</p>	<p>常に学ぶ姿勢を推進しており、定期的な勉強会を行い、研修会への参加を心がけている。ホーム内の勉強会は受け身ではなく、自ら必要性を感じ、取り組むことで意識改革を図っている。</p>	<p>職員個々が目標を立て、目標達成を図りながら仕事をする必要性を感じる。仕事を通して自己が成長できる雰囲気を作っていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族からの相談受付から利用に至ることが多いので、なるべく一緒に見学をしていただいております。</p>	<p>ご本人の環境が変わることなので、重度の認知症があっても、ご本人からの不安を受けとめていきたい。</p>
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族にもGH側にも余裕がないとゆっくり話を伺うことができないので、時間をつくり意向を聴くようにしている。</p>	<p>ご家族によっては、認知症自体を受け入れられず、心理的なショックも受けている場合もある。ご家族の精神面のフォローも忘れずに受けとめていきたい。</p>
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>同一敷地内に居宅支援事業所と小規模多機能ホームがあり柔軟な対応ができる。</p>	<p>相談 申し込みとならない場合でも、ネットワークの紹介や援助できることを行っている。</p>
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入所を試みたことはない。 なじむまで時間を要するのは当たり前と職員も認識しており、ご本人の好きなよう経過していただくことから始めている。 他の利用者との間に職員が入り、安心していただける雰囲気作りを心がけている。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>家族ではないが、一緒に生活して多くの時間を共有している。介護する、介護されるではなく、入居者から学ばせていただいているという姿勢をとっている。</p>	

グループホーム とりかい

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力と理解なしで、入居者を支えあうことはできない。ホーム内での食事会やレクレーションへの参加を呼びかけ、感想を伺っている。入居者の身体状況等は日々変化していくので、ケアプランも含めて一緒に考えていただいている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	それぞれのご家族に過去からの思いがあるのを理解し、双方からの話を聞いている。ホームに入居されてから、ご家族の態度や関わり方に変化がみられる方もおり、より良い関係が築いていけるよう支援している。		重度化に伴い、ご家族の中には面会や外出に消極的になられている方もいる。 ご家族の精神的負担を考慮しながら支援していきたい。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	友人の訪問は快く受けており、他施設で生活している知人への差し入れや交流の援助を行っている。 かかりつけ医への受診や行きつけの美容院への外出支援を行っている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるよう努めている	少人数なので、人間関係が密接になり、相性の問題等が発生しているが、席替えやレクレーション時のグループ分けを考慮している。家事や手作業などで利用者同士の役割を持っていただいて関わり合えるよう努めている。		人間なので、気に障ったり言い合いになるのは当然だと思う。職員が間に入り、お互いの感情を受け止めて不公平にならない対応をしていく。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続して関わっている方は現在おられないが、病院受診時や顔を合わせる機会がある場合は、挨拶をして「いつでも遊びに来てください」と声をかけている。		退所された方やご家族とのご縁を大切にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>意思疎通が可能な方とはケアプラン更新時のモニタリングで現状の満足度のヒアリングを行っている。困難な方については、日々の言動や表情から希望や意向を把握するように努めている。</p>	<p>全職員が一人ずつ担当を持っているが、担当以外の方についても気づきの目を持って、意向の把握をしていきたい。</p>
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>契約時に個人状況表を作成し、分かる限りこれまでの生活歴、性格や趣味、得意なこと等の情報を得るようにしている。ご家族の面会時に不明なことをお尋ねして把握に努めている。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>介護記録に一人ひとりの一日の状態を記録している。手作業等集中して行った方は具体的内容も記載している。バイタル表も作成している。職員は業務に入る前に記録に目を通し、一人ひとりの現状を把握して申し送りを受けている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月1回のケアカンファレンスで一人ひとりのケアについてチームでの話し合いを行い、毎日個別のケアチェック表で入居者の立場に立ってケアのあり方を考えている。カンファレンス以外にも連絡ノートを活用してアイデアを提案している。本人や家族の意向をチームで把握できるよう努めている。</p>	<p>本人と家族を交え、より良く暮らすための介護計画をチーム全体で話し合い、個別のケアチェック表に気づきを反映させていく。</p>
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々変化していく方も多いため、その都度見直しを行っている。医師やNS、PT、OTの意見を取り入れたり、現状に即した介護計画やケアチェック表を作成している。</p>	<p>GH内だけではなく、外部の関係者の意見も取り入れて介護計画を作成していく。</p>

グループホーム とりかい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録に気づきや対応方法を記入している。急変や受診結果、問題行動などはその後の経過を詳しく記入するようになっている。カンファレンス時に検討し見直しを行っている。		異常時の継続したバイタルサインチェックや上司への報告等途切れがないように申し送り徹底していく。
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	GHの隣に小規模多機能ホームが開設され、採用されたスタッフとも顔なじみになり、応援体制がお互いにできている。行事と一緒に出向いたり、利用者が訪問し合うこともある。同一建物内に訪問看護ステーション、ヘルパーステーションもあり、利用者の異常時には連絡している。法人医療機関が隣接しており、医療連携体制が確立している。		小規模多機能ホームと共同で行える行事やレクリエーションを考えていきたい。
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に民生委員が参加されているが、直接の利用者との関わりは持っていない。ボランティアは歌演奏や手品に来ていただいた。社協のボランティアニードに募集を出している。校区内中学校の福祉体験学習の受け入れをした。		協働に積極的に働きかけていく。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用されている方は現在おられない。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は運営推進会議に参加していただいている。		交流を深めて協働していきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が法人内協力医療機関の医師であった方が多くおられ、以前と変更になった方についてもご本人、ご家族の同意と納得を得ている。定期的な健康診断を行い、その後主治医、本人、ご家族とムンテラを行っている。通院介助は主に職員が行っており、法人内にない他科受診も支援している。		

グループホーム とりかい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり利用者や認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医より専門医の紹介を受け受診している。		
47 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月に2回訪問看護師の訪問を受けており、身体状況の相談を行っている。ホーム入居前に訪問を受けていた方は楽しみにしておられる。同一建物内に訪問看護ステーションがあり緊急時の対応をしていただいている。		
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合も食事はGH内で食べていただく等、柔軟な対応で入居者が安心するように連携している。病院関係者との情報交換で早期退院されることが多い。		転倒・骨折 手術となると早期退院が難しい場合もあるので注意していく。
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に「看取りの指針」を書面にて説明し、同意書をいただいている。重度化が進み医療的なケアの必要性が著しくなった場合もできる限りホーム内で生活していただきたいという思いは全員持っているが、他の施設への申し込みをお話させていただくことが多い		ご家族にはターミナルケアをGHで決断するかどうかかわからないという方も多くおられる。想像がつかないというのが現状である。早い段階から繰り返しお話しをするというのはご家族の心情としてどうなのかと思うが、重度化していることは事実なので、確認していきたい。
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療機関が隣接している為、ターミナルケアの経験がない。主治医と「できること、できないこと」の見極めを行っている。		
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事情は様々だが、お互いに納得した上で移住んでいる。また、当GHでの生活状況や情報を引き継いでいただく事でご本人のダメージが最小限になればと認識している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人の人間としての誇りやプライバシーを尊重している。尊敬の念を持って出身地の方言を活用したり安心、信頼を得る言葉かけを行っている。守秘義務厳守は徹底して行うよう記録物も管理している。</p>	<p>職員によっては言葉かけがきつい口調になる場合もあるが、入居者一人ひとりの自尊心に配慮し、否定しない態度で接している。見守りをしながら申し送りとなることも多いが、個人名をイニシャルで表現したり声を低くし、個人情報の取り扱いを徹底している。</p>
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたい納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>言葉かけを利用者に合わせて単純化して行っている。(短いセンテンスやジェスチャー、あれ・これ・こっち等)</p> <p>本人に選択してもらったり決定してもらうような説明と支援を行っている。</p>	
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員の業務優先になってしまうこともたまにあるが、基本的に無理強いせず、本人のペースに合わせた生活をしていただいている。行きたい所、したいこと等、希望を実現できるように支援している。</p>	<p>ケアに手のかかる入居者が多くなり手のかからない方の希望や思いが後回しになったり話を聞く時間が少なくなりがちなので、一人ひとりの希望に沿った支援をしていきたい。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>使い慣れたメーカーの化粧品を使っていただいたり、化粧品をされる方は希望の時間がまちまちであっても、化粧品や鏡を準備するようにしている。マニキュアを希望される方の支援も行っている。行きつけの美容院にお連れし、散髪やパーマ、顔そりをしてもらっている。白髪が気になる方の白髪染めはホームで行っている。</p>	
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>三食の食事は法人内施設に入居者と一緒に取りに行き、配膳やつぎ分けを役割を持っていただいている。その分、食事調理の時間をケアに当てている。週に一度、入居者の食べたいものや旬の食材を使った「おかず作り」を一緒に行っている。入居者の希望や状態に合わせて刻んだり調味料を選んでいただいている。後片付けや食器洗いも自発的に手伝ってくださる方に役割を持っていただいている。</p>	<p>好き嫌いが多かったり食べ方がわからない入居者の方の支援を栄養バランスを考慮しながら、本人の好みの味付けや職員の声かけ、食器の選択等で工夫していきたい。</p>
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>梅酒を作って、希望の方には飲んでいただいている。飲み物やおやつも個人で買い物を希望される方の支援を行っている。喫煙される方はいない。</p>	

グループホーム とりかい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。さびやかな声かけてトイレ誘導を行い、失敗があっても自尊心を傷つけない言葉かけをしている。ティッシュ集め等の行動で尿意・便意を察し、リハビリパンツやパット使用の方もトイレで排泄していただくよう支援している。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間、曜日はおおまかに決めていたが、希望があったり身体状況で入浴できない日が続いた場合等は臨機応変に対応している。拒否のある場合は、無理強いせずタイミングに合わせて行っている。昔から使っている石鹸やシャンプーを使っていたり、一人ひとりがゆっくり楽しめるよう支援している。		夕食後や就寝前にゆっくり入浴したい方の希望には応えられていない。 寒い時期は足浴だけでも対応していきたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	午睡される方を無理に起こすことはせず、居室で休んでいただく時間も必要だと考える。日中活動的な方も眠れない日があり、状況に合わせて夜間職員室でお茶を飲んで話をしたり、空腹の訴えに対応したり安心して眠れるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	定食屋を切り盛りして料理が得意な方、活花の免許を持っている方、畑仕事が好きの方、家政婦をして家事一般が得意な方と生活歴や趣味が活かして役割を持ち、その人らしく生活できるよう支援している。		楽しみごとや役割でできることに意欲的になっていただけるよう活力を引き出す取り組みを続けていきたい。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で金銭管理をされている方は、買い物の希望があった時にご自分で支払いをされている。 ホームでお小遣いをお預かりしている方についても買い物時に金銭を手渡しして支払いの支援を行っている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりの希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	レクリエーション以外にも、日常的に買い物や散歩、区役所への古紙出し、三食の食事受け取り等の外出を行っている。進んで外出しようと思えない方に対しても、玄関外で日向ぼっこをしたり気分転換を図っている。		下着や衣類の買物、メガネの修理等、本人の希望に合わせて車で大型スーパーや店にお連れしている。 買物に興味を持たなくてもドライブは好まれる等、一人ひとりに合わせた支援を行っている。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	ご家族と食事、墓参り、孫の結婚式等、ご家族と外出される際の支援を行っているが、最近はご家族との外出の機会が減っている。 行ってみたい場所、行きたい所を具体的に言われる方は少ない状況。		ご家族へ外出の働きかけを行っていく。お一人以前住んでいた地域に行きたいと意志表示されているので希望実現のため個別に支援する予定。

グループホーム とりかい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に公衆電話があり、ご家族や友人に自由に電話ができる。番号を回したり、イスの設置等は職員が支援している。手紙やハガキを書かれる方は切手を近所の売店で購入されている。投函は職員が代行する場合がある。年賀状はできるだけ全員がご家族等に出せるよう支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問して頂けるよう、過度なおもてなしはせず、職員も入居者と知り合いの方々との時間を大切に考えている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはマニュアルもあり、外部の研修に職員が参加してホーム内の勉強会で伝達講習を行っている。身体的な拘束は理解しているが、「スピーチロック」は無意識に行っている時があり、今後の課題である。		勉強会で「待って下さい」「ダメ」等の言葉かけによる抑制をテーマにあげて全員で認識していきたい。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠している。以前は鍵をかけていなかったが、不審者が入って来たことがあり、ホーム横も車道のため、ご家族には納得していただいている。居室に鍵をかけることはないが、入居者ご自身が外出の際にご自分の部屋に鍵をかけてほしいと希望される場合やまたご自分で中から施錠される時は希望通りにしている。		今後、鍵の種類の変更や開錠する時間を短時間から始めて徐々に延ばしていく等検討していきたい。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員の配置や常に所在確認の意識を持つよう指導しているが、職員の休憩時間中や交代時間等で手薄になる時間帯に所在把握ができていない時がある。夜勤時は巡視を行い安全確認を行っている。		インシデントレポートや職員間の連携、声かけで全員が意識して安全に配慮していく
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて、居室の環境整備や物品の保管場所について話し合っている。認知症の方の行動によっては何もかも注意が必要であるが、一律になくすというのは不自然なことなので、日々変わる「注意の必要な物品」を見極めて危険防止に努めている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人内のリスクマネジメント委員会で職員が委員として活動しており、マニュアルやインシデントレポートの報告がなされている。ホーム内でのヒヤリハットも入居者の事故防止のために重要と考え積極的に報告書を提出するよう指導している。		

グループホーム とりかい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	協力医療機関が隣接しているので、急変時の応援要請やご家族への連絡マニュアルを作成して掲示している。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災報知器が作動し、火元の確認や報知器の操作、消防への通報に関してマニュアルを掲示している。法人内の火災訓練に参加している。地域の人々への働きかけはしていない。		職員全員での避難シュミレーションを行い、日頃から定期的な訓練を行っていく。地域の方への働きかけをどう行っていくか検討中。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族に近況報告をし、予測できるリスクについて一人ひとりに合わせた対応策を説明しご理解いただいている。その際のやりとりを記録に残し、情報を共有している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し対応に結び付けている	職員間で速やかに共有し、バイタルサインチェックや上司への報告を行って指示を受けるようにしている。日頃から気づきの目を持つよう指導している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬一覧表、臨時薬一覧表を作成しており用法や副作用を記載している個別薬箱に注意が必要な日は貼り紙をしている。与薬時の確認、服用確認を行っている。		臨時薬の場合、症状の変化に伴う服用継続、中止の確認を確実に行って伝達していきたい。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	勉強会のテーマに「便秘」をあげ、職員は理解している。排泄確認ができる方はチェックリストにて排便パターンを把握している。日頃から乳製品やバナナ等で腸内環境を整えるように努め、体操もほぼ毎日行っている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせて声かけや介助を行っている。週一回訪問歯科による口腔ケアをしていただいている。週一回義歯洗浄剤を使用している。		

グループホーム とりかい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は記録し、水分量も把握できている。関連施設で栄養計算された献立を提供している。主食を粥にしたりと主菜を刻んだり一人ひとりの希望や状態に合った支援をしている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	勉強会やマニュアル、通達に沿って、ホーム内の消毒を行っている。手洗い、うがいは徹底するように指導している。面会のご家族にも分かりやすいよう貼り紙をしてご協力いただいております。インフルエンザの予防接種は毎年行っている。月1回職員の検便を義務付けている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルとチェックリストを活用して定期的に調理道具や食器、冷蔵庫の消毒を行っている。食材は新鮮なものを早く使いきるよう冷蔵庫内にあるものを書き出して、職員が把握するようにしている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	前回の外部評価で場所がわかりにくいと指摘を受け、扉にプレートを貼った。寮を改築しているので普通の家ではないが、入口には車イス用のスロープがあり玄関周りには、プランターや出迎いの犬の置き物を置いて、できるだけ家庭的な雰囲気になるようにしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には利用者が活けて下さった季節の活花を置くようにしている。利用者の作った手芸品や絵、写真の他、鏡もちや、雛人形等季節感を大切に飾るようにしている。テレビのつけっぱなしはなるべく避け、利用者の好まれる民謡や三味線のBGMを適度な音量で流している。ブラインドやロールスクリーンで光の調整を行っている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間である談話室と通路に別々にソファを設置している。利用者同士で仲良く話をされたり一人ゆっくり洗濯物をたたんだりしておられる。		

グループホーム とりかい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内スペースに納まる程度に、家具や身の回りものを持ち込んでいただいている。人形や植物、家族の写真等大事にされているものを尊重している。		昔のアルバムや残っている記憶から居室内にない物盗られ妄想となる方がおり、安心して過ごしていただけるよう対応策を日々試しているところ。
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気はまめに行い、消臭剤も使用している。一人ひとりの活動量や体感温度が違うので、訪室の際に配慮するようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	古い建物なので、ハード面では段差や梁が残っているが、一人ひとりの状況に合わせて共用部の手すり追加や床の張替えを行っている。		車イスの置き場所や一人ひとりに合わせた室内履きの選択等、安全な環境で生活していただく
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	見た目にはどうかという意見もあったが、「便所」「食堂」等矢印と大きな字で目印を貼ったり吊るすようにしたところ、スムーズに移動される方が増えた。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように工夫している	庭に畑スペースを作り季節の野菜を育てている。水やりは利用者と一緒にいき、収穫時は共に楽しみながら調理している。ベランダで干し柿を作ったりプランターの植物は活花の材料として利用者に活かしていただいている。		

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム とりかい

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

管理者ではなく、スタッフが考えてまとめたことを記載します

- ・病院が隣接しているので急変時の対応等が迅速にでき、ご本人やご家族、職員も安心できる。
- ・関連施設へ食事を取りに行くことにより、栄養を考えたいろいろなメニューを提供できる ケアに回す時間がとれる 一緒にゆっくり盛り付けができる 他のメニューと一緒にゆっくり作ることができる 入居者の好みに合わせた調理の対応ができる。 入居者と一緒に受け取りに行くので、散歩や気分転換も兼ねられる。
- ・レクレーションを月1回行い、外出や外食などの反応や反省を入居者とのアットホームな環境づくりに繋げている。
- ・季節感を感じていただける壁面作りを一緒に行って、共同作業の場を作っている。
- ・入居者一人ひとりの自分らしさとテンポを大切にしたい人間味あふれる暖かい個別ケアができています。
- ・一緒に過ごして、いいときも悪いときも「あなたがいないと寂しい」と感じていただける暖かい雰囲気づくりを心がけている。